

応援体制導入がカテ室看護師の蓄積的疲労に及ぼす効果

【はじめに】A 病院カテ室では、2017 年アンギオセンター設立に伴いカテ件数も増加し、疲労を訴える看護師が増えている。さらに、インシデントの件数も増えており、今後重大事故に繋がるインシデントの発生が危惧され、カテ室看護師の疲労軽減と医療の安全を担保する対策が急務である。患者により安全な医療を提供でき、看護師の蓄積的疲労を軽減するためには、先行研究からも人員配置の工夫が有効であると考えた。そこで 5 部屋を 2 グループ化し、グループ内で応援体制を導入することにより、看護師の蓄積的疲労にどのような効果があるかを明らかにするため本研究に取り組んだ。

【目的】応援体制導入により、看護師の蓄積的疲労にどのような効果をもたらすかを明らかにする。【方法】カテ室看護師 12 名を対象に応援体制導入前後で、蓄積的疲労徴候インデックス(以下 CFIS)質問票を配布し、蓄積的疲労の変化を調査した。また、カテ件数などの環境因子をt検定で分析した。【結果】CFIS8 特性において身体的な側面では、応援体制導入前後とも平均訴え率が高かった。一方精神的な側面では、応援体制前に比べて応援体制導入後の方が低かった。環境因子を応援体制導入前後で<I>t</I>検定の分析をした結果、休憩時間の未取得のみ有意差がみられた。(p=0.07)【結論】応援体制導入により、看護師の身体的な側面での蓄積的疲労は軽減しなかったが、精神的な側面での蓄積的疲労は軽減された。しかし、応援体制導入によりインシデント件数の明らかな減少は認めなかった。